

—— 風しんの報告数が増加しています！ ——

風しんから未来の赤ちゃんを守りましょう

■問合せ 健康増進課(保健センター内) ☎029-885-1889

● 風しんの特徴

風しんは、風しんウイルスに感染することによって、発熱や発疹、リンパ節の腫れなどが生じる病気です。風しんにかかってもほとんどの人は軽症のうちに治りますが、最も怖いのは、妊婦が妊娠早期に風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに先天性風しん症候群と呼ばれる先天性の心臓病、白内障、聴力障害、発育発達遅延などの障がいを引き起こす可能性が非常に高くなることです。



● 感染を防ぐために

風しんウイルスは、くしゃみや咳などで飛び散ったつばなどによって飛沫感染します。風しんにかかった人が知らないうちに周囲の方に風しんウイルスをうつしてしまう可能性があります。

風しんウイルスの感染力は強く、インフルエンザの2～4倍とされています。よって、予防接種を受けることが最も重要な予防方法です。

風しんのワクチンを受けていない方、風しんにかかったことがない方、どちらも不明な方は風しんの予防接種をご検討下さい。特に30代～50代の男性*は、過去に予防接種の機会がなかったため抗体をもっている方が少ないです。予防接種の必要性は、抗体検査で調べることができます。

★昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までに生まれた男性

これまで予防接種法に基づく定期接種を受ける機会がなく、抗体保有率が他の世代に比べて低いため、公費により風しんの抗体検査および定期予防接種を行うことを国で検討しています。実施方法などの詳細は、制度が整い次第、広報・村ホームページでお知らせするとともに、対象者には個別に通知をいたします。

※抗体検査を行い、結果が陰性だった場合にのみ風しんの定期予防接種を行います。



妊娠中の方へ

- ・妊娠中はできるだけ人混みを避けましょう。
- ・夫や同居している家族などには、すぐに風しんワクチンの接種を検討してもらいましょう。
- ・自分や家族、職場の人などが風しんとわかったら、かかりつけの医師に相談しましょう。
- ・妊娠中の検査で抗体価が低かった方は、**出産後**できるだけ早く風しんワクチン接種を検討しましょう。



みんなでできること

- ・抗体検査・予防接種を検討しましょう。
- ・体調がすぐれない場合には、無理して外出しないでください。
- ・どうしても外出が必要な場合には、咳エチケットを徹底しましょう。
- ・風しんを疑う症状が出現した際は、医師に相談しましょう。



妊娠を希望する19歳～49歳の女性で村の要件*に該当する方には風しん予防接種の補助があります

※風しんにかかったことがなく、風しんワクチンまたはMRワクチンの予防接種を受けたことがない。
(接種歴は母子手帳等でご確認ください)